

2020年度 日本大学 (A方式)

【 講 評 】

例年通りの形式で出題された。大問3 (空欄補充) で確率が出題されたのは目新しかったが、典型的な問題であったし、全体的に難易度が下がり、計算量も多くなかったため、高得点の勝負となるだろう。8割程度の得点をしたい。

【 解 答 】

1 小問集合【やや易】

- (1) $\boxed{1}$: 1, $\boxed{2}$: 3, $\boxed{3}$: 2, $\boxed{4}$: 1, $\boxed{5}$: 3, $\boxed{6}$: 5, $\boxed{7}$: 3
 (2) $\boxed{8}$: 3, $\boxed{9}$: 2, $\boxed{10}$: 7
 (3) $\boxed{11}$: 8, $\boxed{12}$: 3, $\boxed{13}$: 3
 (4) $\boxed{14}$: 3, $\boxed{15}$: 1, $\boxed{16}$: 1

2 小問集合【やや易】

- (1) $\boxed{17}$: 6, $\boxed{18}$: 1, $\boxed{19}$: 2, $\boxed{20}$: 2, $\boxed{21}$: 1, $\boxed{22}$: 4
 (2) $\boxed{23}$: 1, $\boxed{24}$: 2, $\boxed{25}$: 3, $\boxed{26}$: 3, $\boxed{27}$: 3, $\boxed{28}$: 2
 (3) $\boxed{29}$: 1, $\boxed{30}$: 1, $\boxed{31}$: 6, $\boxed{32}$: 3, $\boxed{33}$: 2
 (4) $\boxed{34}$: 5, $\boxed{35}$: 5, $\boxed{36}$: 5, $\boxed{37}$: 5, $\boxed{38}$: 3, $\boxed{39}$: 7, $\boxed{40}$: 1

3 確率 (数学A)【やや易】

- (1) $\boxed{41}$: 1, $\boxed{42}$: 8, $\boxed{43}$: 9, $\boxed{44}$: 2
 (2) $\boxed{45}$: 4, $\boxed{46}$: 0, $\boxed{47}$: 2, $\boxed{48}$: 4, $\boxed{49}$: 3
 (3) $\boxed{50}$: 7, $\boxed{51}$: 3, $\boxed{52}$: 7, $\boxed{53}$: 2, $\boxed{54}$: 9

4 微分法 (数学Ⅲ)【標準】

- (1) $f'(x) = \frac{e^x(x - 2e^x - 2)}{x^3(1 + e^x)^2}$, (2) 解説参照, (3) $p = \frac{4\sqrt{e}}{1 + \sqrt{e}}$, $q = \frac{e}{1 + e}$

5 微分法・積分法 (数学Ⅲ)【やや易】

- (1) 極大値 $\frac{1}{2}$ ($x=1$), 極小値 $-\frac{1}{2}$ ($x=-1$), (2) $y = -\frac{1}{8}x + \frac{3\sqrt{3}}{8}$, (3) $\frac{9}{16} - \frac{1}{2}\log 3$

【 解 説 】

[I]

(1) $y = 4x^2 - 7x - 1$ ……①, $y = x^2 - 2x + 1$ ……② とする.

①, ② を連立させて $(3x+1)(x-2) = 0 \quad \therefore x = -\frac{1}{3}, 2$

よって ①, ② の共有点の x 座標は $x = -\frac{1}{3}, 2$

また ① - ② $\times 4$ より $-3y = x - 5 \quad \therefore y = -\frac{1}{3}x + \frac{5}{3}$

これは ①, ② の共有点を通る直線を表す.

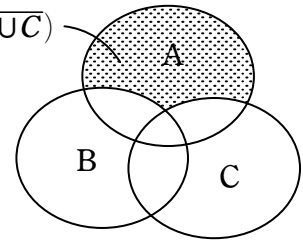
(2) $[x]$ は x を超えない最大の整数を表すとする.

$A \cap B \cap C$ は 30 の倍数を表すから, $n(A \cap B \cap C) = \left[\frac{100}{30} \right] = 3$

$$n(A \cap \overline{B \cup C}) = n(A \cap (\overline{B} \cap \overline{C})) \\ = n(A) - \{n(A \cap B) + n(A \cap C) - n(A \cap B \cap C)\}$$

$A \cap B$ は 6 の倍数, $A \cap C$ は 10 の倍数, $A \cap B \cap C$ は 30 の倍数であるから,

$$n(A \cap \overline{B \cup C}) = \left[\frac{100}{2} \right] - \left\{ \left[\frac{100}{6} \right] + \left[\frac{100}{10} \right] - \left[\frac{100}{30} \right] \right\} = 50 - (16 + 10 - 3) = 27$$



(3) $a^4 + c^2 a^2 - b^2 c^2 - b^4 = 0$ より $(a^2 - b^2)c^2 + a^4 - b^4 = 0$

$$\therefore (a^2 - b^2)(c^2 + a^2 + b^2) = 0$$

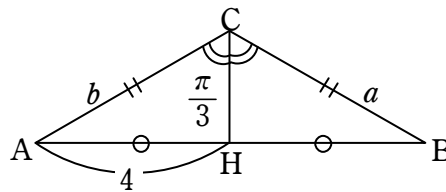
$a > 0, b > 0, c > 0$ より $c^2 + a^2 + b^2 > 0$ であるから $a^2 - b^2 = 0 \quad \therefore a = b$

よって C から AB へ垂線 CH を下すと,

直角三角形 CAB において

$$\angle ACH = 60^\circ, \quad AH = 4$$

$$\text{であるから } a = b = \frac{4}{\sin 60^\circ} = \frac{8\sqrt{3}}{3}$$



(4) 連立不等式の表す領域を図示すると, 右図の斜線部分となる. ただし, 境界線を含む.

また, 境界線 $y = -\frac{1}{5}x + 3$ と $y = x - 3$ の交点は

(5, 2) である.

$$x + 3y = k \text{ とおくと } y = -\frac{1}{3}x + \frac{k}{3} \dots\dots \text{①}$$

① は傾き $-\frac{1}{3}$, y 切片 $\frac{k}{3}$ の直線を表すから,

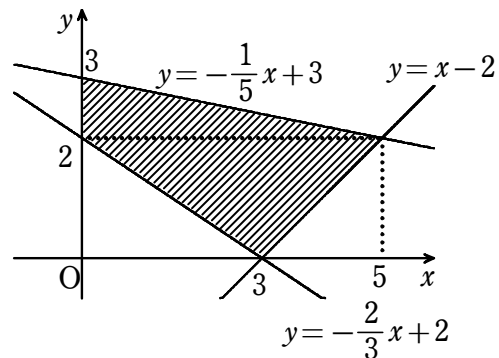
これが連立不等式の表す領域と共有点を持つときの k の最小値, 最大値を求める.

$$-\frac{2}{3} < -\frac{1}{3} < -\frac{1}{5} \text{ であるから,}$$

$$(x, y) = (3, 0) \text{ のとき, 最小値 } k = 3 + 3 \cdot 0 = 3,$$

$$(x, y) = (5, 2) \text{ のとき, 最大値 } k = 5 + 3 \cdot 2 = 11$$

をとる.



[II]

(1) $\vec{a} \cdot \vec{b} = 1 - t + 2 - t + 2t + 3 = 6$

また、 $\vec{a} - \vec{b} = (-t, 1 - t, 2t + 2)$ であるから

$$|\vec{a} - \vec{b}|^2 = (-t)^2 + (1 - t)^2 + (2t + 2)^2 = 6t^2 + 6t + 5 = 6\left(t + \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{7}{2}$$

t は実数であるから $t = -\frac{1}{2}$ のとき、最小値 $\sqrt{\frac{7}{2}} = \frac{1}{2}\sqrt{14}$ をとる.

別解 $\vec{a} - \vec{b}$ を直線のベクトル方程式とみて解くこともできる

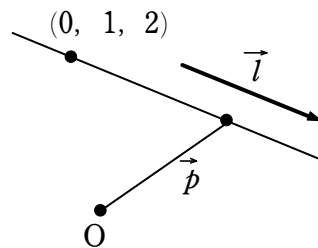
$$\vec{p} = \vec{a} - \vec{b} = (-t, 1 - t, 2t + 2) = (0, 1, 2) + t(-1, -1, 2)$$

\vec{p} は $(0, 1, 2)$ を通り、 $\vec{l} = (-1, -1, 2)$ を方向ベクトル

とする直線上の点を表すから、 $\vec{p} \perp \vec{l}$ のとき $|\vec{p}|$ は最小となる.

$$\vec{p} \cdot \vec{l} = 0 \text{ より } -(-t) - (1 - t) + 2(2t + 2) = 0 \quad \therefore t = -\frac{1}{2}$$

このとき $\vec{p} = \left(-\frac{1}{2}, \frac{3}{2}, 1\right)$ より、最小値 $|\vec{p}| = \frac{1}{2}\sqrt{14}$ となる.



(2) $y = \frac{1}{2} \sin \frac{x}{2} + \cos x = \frac{1}{2} \sin \frac{x}{2} + 1 - 2 \sin^2 \frac{x}{2} = -2 \left(\sin \frac{x}{2} - \frac{1}{8} \right)^2 + \frac{33}{32}$

$0 \leq x \leq 2\pi$ のとき $0 \leq \frac{x}{2} \leq \pi$ であるから $0 \leq \sin \frac{x}{2} \leq 1$

$0 < \frac{1}{8} < \frac{1}{2}$ であるから

$$\sin \frac{x}{2} = 1 \text{ のとき、最小値 } -\frac{1}{2}, \quad \sin \frac{x}{2} = \frac{1}{8} \text{ のとき、最大値 } \frac{33}{32}$$

をとる.

(3) $z = \frac{1 + \sqrt{3}i}{2} = \cos \frac{\pi}{3} + i \sin \frac{\pi}{3}$ より $z^n = \cos \frac{n}{3}\pi + i \sin \frac{n}{3}\pi$

$|z^n| = 1$, $\arg(z^n) = \frac{n}{3}\pi$ であるから、 z^n は複素数平面上の

原点を中心とする半径 1 の円に内接する、1 を 1 つの頂点とする正六角形の頂点に対応する. よって m を自然数とすると

$$a_{6m} = 1, \quad a_{6m-1} = a_{6m-5} = \frac{1}{2},$$

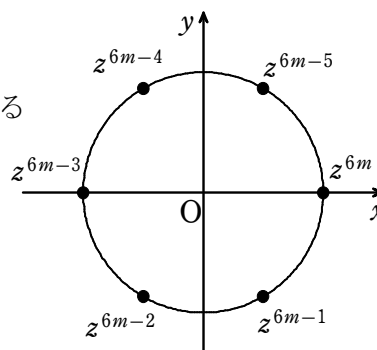
$$a_{6m-2} = a_{6m-4} = -\frac{1}{2}, \quad a_{6m-3} = -1$$

となるから

$$a_1 a_2 a_3 a_4 a_5 a_6 = 1 \cdot (-1) \cdot \left(\frac{1}{2}\right)^2 \cdot \left(-\frac{1}{2}\right)^2 = -\frac{1}{16}$$

また $a_{6m-5} + a_{6m-4} + a_{6m-3} + a_{6m-2} + a_{6m-1} + a_{6m} = 0$ であり、 $2020 = 336 \times 6 + 4$ であることから、

$$\sum_{n=1}^{2020} a_n = 0 \times 336 + \frac{1}{2} + \left(-\frac{1}{2}\right) + (-1) + \left(-\frac{1}{2}\right) = -\frac{3}{2}$$



$$(4) \quad P = a^4 - 25(a^2 + 2a + 1) = a^4 - 25(a + 1)^2 \\ = \{a^2 - 5(a + 1)\}\{a^2 + 5(a + 1)\} = (a^2 + 5a + 5)(a^2 - 5a - 5)$$

$|P|$ が素数となるには

$$|a^2 + 5a + 5| = 1 \quad \dots\dots\textcircled{1} \quad \text{または} \quad |a^2 - 5a - 5| = 1 \quad \dots\dots\textcircled{2}$$

となる必要がある。

(i) $a^2 + 5a + 5 = 1$ のとき

$$a^2 + 5a + 4 = 0 \quad (a + 4)(a + 1) = 0 \quad \therefore a = -4, -1$$

$a = -4$ のとき, $|P| = |1 \cdot (16 + 20 - 5)| = 31$ は素数となるので適する。

$a = -1$ のとき, $|P| = |1 \cdot (1 + 5 - 5)| = 1$ は素数でないので不適である。

(ii) $a^2 + 5a + 5 = -1$ のとき

$$a^2 + 5a + 6 = 0 \quad \text{より} \quad (a + 2)(a + 3) = 0 \quad \therefore a = -2, -3$$

$a = -2$ のとき, $|P| = |(-1) \cdot (4 + 10 - 5)| = 9$ は素数でないので不適である。

$a = -3$ のとき, $|P| = |(-1) \cdot (9 + 15 - 5)| = 19$ は素数となるので適する。

(iii) $a^2 - 5a - 5 = 1$ のとき

$$a^2 - 5a - 6 = 0 \quad \text{より} \quad (a - 6)(a + 1) = 0 \quad \therefore a = 6, a = -1$$

$a = 6$ のとき, $|P| = |(36 + 30 + 5) \cdot 1| = 71$ となるので適する。

$a = -1$ のときは (i) より不適である。

(iv) $a^2 - 5a - 5 = -1$ のとき

$a^2 - 5a - 4 = 0$ を満たす a は整数とならないので不適である。

以上より, $|P|$ が素数となる a は **3** 個であり, 最大の $|P|$ は **71** である。

お問い合わせは ☎ 0120-302-872

<https://keishu-kai.jp/>

[Ⅲ]

2以下の目が出る確率は $\frac{2}{6} = \frac{1}{3}$, 3以上の目が出る確率は $\frac{4}{6} = \frac{2}{3}$ である.

さいころを n 回振り, 2以下の目が x 回出るとき,

$$A \text{ 君の得点は } 10 + 1 \cdot x + 2 \cdot (n - x) = -x + 2n + 10 \quad \cdots \cdots \textcircled{1}$$

$$B \text{ 君の得点は } 6 + 3 \cdot x + 1 \cdot (n - x) = 2x + n + 6 \quad \cdots \cdots \textcircled{2}$$

となる.

(1) $n=50$ で A 君と B 君の得点がちょうど等しくなるとき, ①, ②より

$$-x + 2 \cdot 50 + 10 = 2x + 50 + 6$$

$$3x = 54 \quad \therefore x = 18$$

このとき各自の得点は $-18 + 2 \cdot 50 + 10 = 92$ である.

(2) $n=5$ で A 君と B 君の得点がちょうど等しくなるとき, ①, ②より

$$-x + 2 \cdot 5 + 10 = 2x + 5 + 6$$

$$3x = 9 \quad \therefore x = 3$$

よって 2 以下の目が 3 回, 3 以上の目が 2 回出る確率であるから,

$${}_5C_2 \left(\frac{1}{3}\right)^3 \left(\frac{2}{3}\right)^2 = \frac{40}{243}$$

(3) $n=6$ で A 君の得点が B 君の得点よりも小さくなるとき, ①, ②より

$$-x + 2 \cdot 6 + 10 < 2x + 6 + 6 \quad \therefore 3x > 10$$

$1 \leq x \leq 6$ であるからこれを満たすのは $x=4, 5, 6$

よって 2 以下の目が 4 回または 5 回または 6 回出る確率であるから

$${}_6C_4 \left(\frac{1}{3}\right)^4 \left(\frac{2}{3}\right)^2 + {}_6C_5 \left(\frac{1}{3}\right)^5 \left(\frac{2}{3}\right) + \left(\frac{1}{3}\right)^6 = \frac{73}{729}$$

[IV]

$$(1) f'(x) = \frac{e^x x^2 (1+e^x) - e^x \{2x(1+e^x) + x^2 e^x\}}{x^4 (1+e^x)^2} = \frac{e^x (x - 2e^x - 2)}{x^3 (1+e^x)^2}$$

(2)

$g(x) = x - 2e^x - 2$ とすると, $f'(x)$ と $g(x)$ の符号は一致する.

$$\frac{1}{2} \leq x \leq 1 \text{ のとき } e^x > 0 \text{ であるから } g(x) = x - 2e^x - 2 < x - 2 < 0$$

よって $\frac{1}{2} \leq x \leq 1$ において $f'(x) < 0$ であるから, $f(x)$ は単調に減少する. ■

別解

$$g(x) = x - 2e^x - 2 \text{ とすると } g'(x) = 1 - 2e^x < 0$$

$$\text{よって } g'(x) \text{ は単調に減少であり } g\left(\frac{1}{2}\right) = \frac{1}{2} - 2e^{\frac{1}{2}} - 2 = -2\sqrt{e} - \frac{3}{2} < 0$$

したがって $g(x) < 0$ ■

(3) $\frac{1}{2} \leq x \leq 1$ より $x^2 > 0$ であるから, 不等式を変形すると

$$-px^2 \leq \frac{1}{1+e^x} - 1 \leq -qx^2$$

$$-px^2 \leq \frac{-e^x}{1+e^x} \leq -qx^2$$

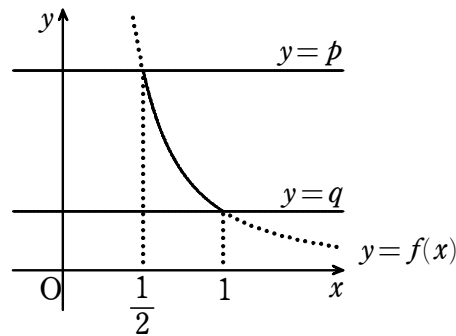
$$p \geq \frac{e^x}{x^2(1+e^x)} \geq q \quad \therefore p \geq f(x) \geq q$$

よって $|p-q| = p-q$ が最小となるのは,

p が $\frac{1}{2} \leq x \leq 1$ における $f(x)$ の最大値, q が $\frac{1}{2} \leq x \leq 1$ における $f(x)$ の最小値

となるときである. (2) より $f(x)$ は単調に減少するから, $|p-q|$ が最小となる p, q は

$$p = f\left(\frac{1}{2}\right) = \frac{4\sqrt{e}}{1+\sqrt{e}}, \quad q = f(1) = \frac{e}{1+e}$$



[v]

$f(-x) = \frac{-x}{1+(-x)^2} = -\frac{x}{1+x^2} = -f(x)$ より, $y=f(x)$ のグラフは原点に関して
対称であるから, $x \geq 0$ の部分について考える.

$$(1) f'(x) = \frac{1 \cdot (1+x^2) - x \cdot 2x}{(1+x^2)^2} = \frac{(1-x)(1+x)}{(1+x^2)^2}$$

$x \geq 0$ のとき $(1+x^2)^2 > 0$, $1+x > 0$ であるから,
 $f(x)$ の増減は右のようになる.

x	0		1	
$f'(x)$		+	0	-
$f(x)$		↗		↘

$f(1) = \frac{1}{2}$ であるから, $y=f(x)$ の対称性に注意すると,

$x=1$ のとき極大値 $\frac{1}{2}$ をとり, $x=-1$ のとき極小値 $-\frac{1}{2}$ をとる.

$$(2) f''(x) = \frac{-2x(1+x^2)^2 - (1-x^2) \cdot 4x(1+x^2)}{(1+x^2)^4} = \frac{2x(x+\sqrt{3})(x-\sqrt{3})}{(1+x^2)^3}$$

$x > 0$ のとき $(1+x^2)^3 > 0$, $x+\sqrt{3} > 0$ であるから,
曲線 $y=f(x)$ の凹凸は右のようになる.

x	0		$\sqrt{3}$	
$f''(x)$	/	-	0	+
$f(x)$	/	∩		∪

$f(\sqrt{3}) = \frac{\sqrt{3}}{4}$ より $x > 0$ における $y=f(x)$ の

変曲点の座標は $(\sqrt{3}, \frac{\sqrt{3}}{4})$ である.

$f'(\sqrt{3}) = -\frac{1}{8}$ であるから, 変曲点における接線 ℓ の方程式は

$$y = -\frac{1}{8}(x-\sqrt{3}) + \frac{\sqrt{3}}{4} \quad \therefore y = -\frac{1}{8}x + \frac{3\sqrt{3}}{8} \quad \dots\dots ①$$

(3) $f'(\frac{1}{\sqrt{3}}) = \frac{3}{8}$ であるから, 直線 m の方程式は

$$y = \frac{3}{8}\left(x - \frac{1}{\sqrt{3}}\right) + \frac{\sqrt{3}}{4} = \frac{3}{8}x + \frac{\sqrt{3}}{8} \quad \dots\dots ②$$

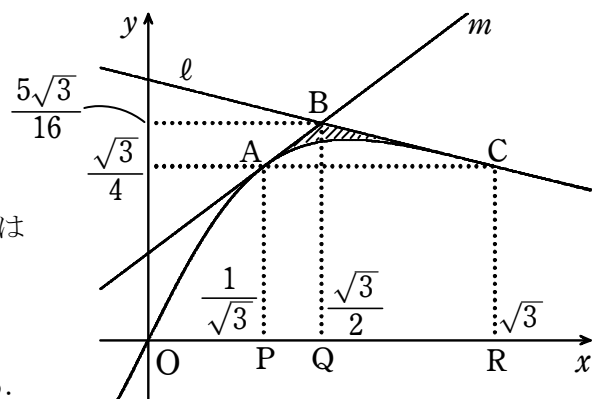
①, ② を連立させると $x = \frac{\sqrt{3}}{2}$

① に代入すると $y = \frac{5\sqrt{3}}{16}$ であるから, 2 直線 ℓ, m は

$(\frac{\sqrt{3}}{2}, \frac{5\sqrt{3}}{16})$ で交わる.

これと (1), (2) より, 求める面積は図の斜線部分である.

図のように点 A, B, C, P, Q, R をとると



$$(\text{台形APQB}) + (\text{台形BQRC}) - \int_{\frac{1}{\sqrt{3}}}^{\sqrt{3}} \frac{x}{x^2+1} dx$$

$$= \frac{1}{2} \left(\frac{\sqrt{3}}{4} + \frac{5\sqrt{3}}{16} \right) \cdot \frac{\sqrt{3}}{6} + \frac{1}{2} \left(\frac{5\sqrt{3}}{16} + \frac{\sqrt{3}}{4} \right) \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} - \left[\frac{1}{2} \log|x^2+1| \right]_{\frac{1}{\sqrt{3}}}^{\sqrt{3}} = \frac{9}{16} - \frac{1}{2} \log 3$$